

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	緑茶摂取関連情報と新型コロナウイルス感染症罹患の地域差に関する検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	薬学研究院・特任教授	氏名	山田 浩
	研究協力者	所属・職名	薬学研究院・特任助教	氏名	河合 保枝
		所属・職名	薬学研究院・講師	氏名	伊藤 由彦
		所属・職名	薬学研究院・客員共同研究員	氏名	古島 大資
	発 表 者	所属・職名	薬学研究院・特任教授	氏名	山田 浩

講演題目
緑茶摂取関連情報と新型コロナウイルス感染症罹患の地域差に関する検討
研究の目的、成果及び今後の展望
新型コロナウイルス感染症（coronavirus disease-2019: COVID-19）は2019年末から世界中で流行が拡大し、ワクチンが開発された現在も変異ウイルスの出現も相俟って未だ感染が継続している。公衆衛生的な予防活動としての手洗い、マスクの着用やアルコール手指消毒も完全に流行を阻止しているとは言えず、新たな補完的予防法が期待されている。緑茶に含まれるカテキンには抗菌・抗ウイルス作用があり、COVID-19を引き起こす新型コロナウイルスに対しても不活化作用があることが細胞レベルの実験で確認されており、補完的予防法として期待されている。しかし、ヒトを対象とした研究での報告は、ほとんど行われていない。そこで本研究では COVID-19 罹患の地域差と緑茶摂取との関連に着目し、生態学的な研究手法を用い、都道府県別の緑茶摂取関連情報（緑茶消費金額、荒茶生産量）と COVID-19 罹患状況（罹患率・死亡率）との関連を探索的に検討することとした。 単回帰分析の結果、厚生労働省特設サイトから集計した COVID-19 罹患率と総務省統計局による家計調査から抽出した緑茶消費金額の間には有意な相関を示さなかったが、農林水産省の調査による荒茶生産量とは僅かな正の相関を示した。死亡率は緑茶消費金額と荒茶生産量いずれにおいても有意な相関を示さなかった。感染に関わる因子をモデルに組み込み、重回帰分析を行った結果、緑茶消費金額、荒茶生産量ともに有意な関連は認められなかった。 COVID-19 罹患状況と緑茶消費金額との関連が認められなかった要因として、今回用いた消費金額は県庁所在地別のデータのため、都道府県全体を反映しておらず、荒茶生産量は都道府県別のデータではあるが緑茶消費の指標として精度が十分ではなかったことが考えられた。今後はより正確な緑茶消費量での疫学調査や介入試験を行う必要がある。